

平成22年度農林水産試験研究中間評価（平成22年8月2日開催）結果

番号	機関名	課題名	研究期間	研究概要	総合評価	評価委員コメント
1	水産総合センター	ホンモロコ養殖水面（休耕田）の高度利用に関する実証試験	H20～24	休耕田を利用したホンモロコ養殖は、設備投資が少ない一方、飼育池の水深が30cm程度と浅いため、鳥害にあたり、夏期の水温上昇による酸素欠乏を起こしやすく、収穫量が安定しない。この課題を克服し安定生産を図るため、食材として販売可能な水生植物（ジュンサイなど）の同時栽培（混養飼育）について検討する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・大変有望な事業であるので、製品出荷までつなげて欲しい。 ・経営の安定・効率化により新規参入者が増え、一定量の収穫が確保できれば実需者も利用しやすくなる。成果の期待される研究である。 ・収穫量が安定しないと新規の生産者が頭打ちになるのではないかと。ジュンサイとの混養は評価できる。今後期待する。 ・県全体でどれくらいの生産高にもっていきたいと考えているのか。経済効果（1次産業、2次産業、3次産業）をもう少し明らかにすべきでは。 ・ホンモロコの養殖技術を確認し、県内の生産増加に結びつくのを期待しています。 ・ホンモロコ養殖とジュンサイ栽培の組み合わせによる一石二鳥の効果は評価できる。今後は、休耕田利用との組み合わせで実生産レベルへの展開が期待される。
2	林業試験場	スギ中目および大径材の有効利用に関する研究	H20～23	県産スギ材が大径化しているが、大径材の有効な木どりである梁・桁材にした場合の材質性能が明らかにされていない。そこで、スギ丸太と、梁・桁材などに製材した場合の材質性能を明らかにし、スギ中目および大径材の有効利用を促進する。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、立派な大径材が売れなくて困っているのは是非必要な研究である。 ・有効利用に向けての道筋が出来たと考えられる。割れの問題を克服し、成果につながることを期待したい。 ・今後割れを抑制する乾燥方法の研究に期待する。能登材と加賀材による違いについても研究するべき。 ・更なる研究が必要であると思います。 ・材面割れ対策が今後の課題であろう。